

中間報告書

令和4年9月15日現在

1 事業名

備中地域の伝統芸能を通じた地域活動
～「本物の能楽」に触れて地域における伝統芸能・伝統文化を再発見しよう～

2 実施期間 : 令和4年4月18日～令和5年2月28日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

伝統文化や伝統芸能の発信を通して、地域住民、特に若い世代の方の地域に対する愛着形成の促進を図り、住民主体のまちづくりや住民による魅力発信を進めるため、令和4年度は、新見・高梁エリアにおいて能楽講座、及び昨年度開催できなかった「備中伝統芸能フェスティバル」を倉敷市芸文館にて実施する。もって、備中地域の伝統文化・伝統芸能を知ることにより、自らの存在が地域社会の中で育まれたことを再認識し、若い世代に地域のためにできること、故郷のためにできることを探すきっかけになればと考える。この事業により地域住民主体によるまちづくりや、地域住民による地域の魅力の発信など、当該地域の魅力の再発見につなげていきたい。

② 事業の流れ・進捗状況等

<実施したこと>

企画名称:「備中伝統芸能フェスティバル」
開催日:2022.7.31(日)
実施地域:倉敷市(倉敷市芸文館大ホール)
対象地:備中県民局対象エリア(主に倉敷市)

事業の位置づけ(狙い):

当該企画の実施により身近な地域で伝統芸能に触れる、学ぶ、考える機会を創出するだけでなく、地域の歴史や文化にはそれらに伝統芸能・伝統文化が関係していること、そしてそれらが地域のつながりや地域活動に関わる重要な土台であることを認識する機会となることを狙う。

事業の進め方:

企画の細部は当法人内に設置した企画運営会議体である「備中県民局提案型協働事業プロジェクトチーム」で検討。そのうえで企画実施前には県民局担当者や外部有識者も参加した「備中県民局提案型協働事業実行委員会」にて広く企画を検討。

当日のマンパワー確保のため、広く地域住民から運営スタッフ(ボランティア)を募り、主に当日の運営スタッフとして活躍していただいた。また、地域で活動されている方々の

日頃の活動の紹介・発表の場として、ステージでの活動披露やロビーでの活動紹介出展等を行い、当事者として地域の方に参加していただいた。

具体的な内容:

「備中伝統芸能フェスティバル」では主に下記3点をテーマに企画実施した。

① 地域伝統芸能発表会:

備中地域で行っている伝統芸能の披露等をステージにて行う。

② 地域活動出展:

会場ロビーでの物販・活動報告掲示を行う。

③ 演能会(演目:「藤戸」)(出演:林松響会ら):

能楽家・林宗一郎氏による地元ゆかりの演目「藤戸」の能楽鑑賞。

<成果・効果を高めるための工夫や仕掛け>

【若年者向け対策】

- ・法人ホームページや SNS を活用したデジタル広報の活用
- ・インターネットを活用したチケット販売（チケットぴあ）
- ・学生ボランティア(当日の企画運営支援のためのスタッフ)の活用
- ・伝統芸能興行には珍しい「未就学児来場(お子様)OK」対応により比較的年齢の若い世代がお子様連れで来所することができた。
- ・近隣を中心に学校を訪問して、事業の趣旨を説明し、チラシの配布、職員への回覧を依頼した。うち、帯江小、豊洲小、天城小、粒江小、多津美中、東陽中、天城高校では、校長先生・副校長先生に直接、事業について説明することができた。

【高齢者等シニア層対策】

- ・紙媒体及び、芸事教室や和楽器店でのポスター掲示等、アナログ広報チャンネルを多数設定
- ・ご当地ネタでの興行実施
(能楽「藤戸」の上演、倉敷市児島・野崎家所有の能面を演能会に使用等)
- ・チケット販売を敢えて現金販売、手売方式の形式を残す
(販売箇所:つくぼ片山家・芸文館)
- ・関係者によるチケット斡旋購入方式の採用
(能楽教室の先生等が塾生のための入場券を代理購入等)

<今後、実施すること>

企画名称:「備中能楽講座」

開催日:2022.10.22(土)

実施地域:高梁市(天柱山頼久寺)

対象地域:主に備中県民局 高梁・新見地域

③ これまでの成果・効果、今年度事業終了後の成果・効果の見込み

(A) 備中伝統芸能フェスティバルの全体的な成果

■参加人数を300人と見積もっていたが、実際は500人の来場者があり、多くの方に来場していただくことができた。

…備中県民局との協働により、ラジオ等での宣伝やポスターによる宣伝ができたので、多くの地域住民にイベントを伝えることができた。

■ステージ企画は、来場者の満足度が高かった。

アンケート回答 184 通のうち、「とてもよい」49%、「よい」32%と、80%が高評価であった。

…その他は「普通」8%、未記入 10%、「よくない」0.5%、「わるい」0%であった。

(「よくない」は1通。その理由は「長くて集中力がとぎれる」との意見)

■企画参加、ボランティア参加を通して多くの団体、地域の方々と繋がることができた。

また、太鼓の団体が神楽の高校生の団体に協力を申し出るなど、参加者同士の交流もあった。

(B) 目標にてらしての成果

今年度目標①

「はじめて伝統芸能」に触れる地域住民を増加させる

評価指標・測定方法	数値目標		
	前年度	今年度	実績
アンケートにて指標化 (「初参加」指標化)	能楽講座 10%	演能会:20% 能楽講座:20%	全体アンケート 項目設定せず ボランティア 74%

…昨年度開催したイベントとは趣旨や規模が異なるため、開催済みイベント(備中伝統芸能フェスティバル)のアンケートには当該記載項目は設定せず。しかし、ボランティア・企画

参加者に後日、郵送で答えていただいたアンケートでは、ステージ企画を見た 31 名の内、太鼓、神楽、能のいずれかを「初めて見た」が 23 名(74%)だった。

なお、比較し対照が可能なイベントとして 2022.10.22 に「能楽講座」を開催予定であり、当該イベントでのアンケート項目に「はじめて伝統芸能に触れる機会となったか」を指標化し、比較検討をする予定。

今年度目標②

企画を連携して運営できる団体等の獲得

評価指標・測定方法	数値目標		
	前年度	今年度	実績
参加者団体数を 計測し数値化	演能会中止 後援5協力約10	後援:10 協力:15-20	後援:3 企画協力:13

…昨年度は新型コロナウイルス感染症のため開催が中止となった為、同規模イベントとして比較することは困難であり、当年度実績数を報告。

企画後援(3)、舞台発表による企画参加(4)、ロビーでの企画出展参加(6)、運営企画(運営ボランティア)参加(3)の合計16団体が企画として連携を実施した。

今年度目標③

伝統芸能を身近に感じてもらい地元への愛着や関心を醸成する

評価指標・測定方法	数値目標		
	前年度	今年度	実績
意識変容等を 数値化	不詳・ 項目未設定	意識変容 30%以上	数値化困難・ 下記参照

…当初はアンケートに特定項目を設け当該指標を数値化することを検討したが、設問の設定が困難と判断。アンケートの自由記載欄から参加者・来場者の意見を抜粋して勘案。

「地元の伝統文化を知ってもらう機会」「地域とのつながりが深まる」

「藤戸に住んでいたもので、ルーツにかかわる、こういう演目がとても有難いと思いました」

「地域の伝統芸能に若い人達が興味をもっているのだと知り、頼もしく思いました」

「地元岡山の伝統芸能に携わっておられる学校、団体が多くあることを知ることができた」

などの意見がたくさんあった。

(C) 今年度事業終了後の成果・効果の見込み

参加者数の多さ、アンケートでの評価などから、以下の効果が見込まれる。

しかし、その効果が現実になるためには、これからの継続的な働きかけが重要である。

○伝統芸能を身近に感じる方の増加

○伝統芸能の担い手同士の交流

○高校生等、若い人で伝統芸能に関心を持つ層の増加

○近隣の学校を訪問し、特に当法人と近い学校からは今後の取り組みに前向きな反応があった。

「児童をつくぼ片山家に連れて行って能舞台を見せたい」

「地元の歴史の学習に参考にしたい」「地域学習に取り入れたい」 等

…県民民局との協働により、学校への働きかけがしやすかった。

④ 課題等

■新型コロナウイルス感染症対策

イベント開催、特に大規模な人員を動員するイベント開催には感染症対策が必須であり、会場確保、来場者確保、当日イベントスタッフ確保等、大変苦心した。特に多数県外から来県される講師・演者等の対応は来場時の検温や健康観察の徹底等、配慮を要した。また学校単位でのイベント参加は、感染流行とともに校外活動そのものが制限・中止されるリスクがあり、スタッフが必要数確保できるか、開催日ぎりぎりまで苦慮した。

■当法人のマンパワー不足→準備作業等にボランティアさんの協力が必要だった。

主催者としての意思決定が早い、小回りのきく態勢を重視したため、ボランティアさんには当日のお手伝いのみをお願いしたが、準備作業に多大な労力が必要で、県民局や法人協賛企業・団体等の献身的な支援がなければ運営できない状況であった。準備の段階から継続してボランティアさんに加わっていただくような体制づくりが課題である。

■多種多様な価値観を持たれる来場者への対応

感染対策や安全上の配慮から、来場者の方へは、感染対策の徹底や会場への入場制限、座席の着座制限等を主催者判断で実施したが、その対応につき不快・不適切と思われた方が一定数おられた。

また、今回のイベントについては県民局の公的助成事業であること等を踏まえ、「未就学児の来場 OK」、「親子で観劇、歓迎します」といった企画運営指針を採用し、あらかじめ広報や掲示等で周知徹底をしていたが、アンケート等では「非常識だ」、「鑑賞に集中できない」、「ワクチンを受けていない幼児など入場させるな」といった否定的・排他的な意見も散見された。

「未就学児の来場 OK」という方針は、イベントの開催の在り方に一石を投じることができたと思うが、入場制限等とともに、今後の検証が必要である。

4 参考事項・資料

収支関係資料・当日資料等をご参照ください。

● 備中伝統芸能フェスティバル ●

観世流シテ方・林宗一郎

「藤戸」演能会

2022年 7月31日(日)

12時開場／13時開演(予定)

倉敷市芸文館 大ホール

(岡山県倉敷市中央1-18-1)

新見高梁特別招待公演 備中神楽「備中成羽社」(岡山県神社庁所属)も同時開催!

地域活動団体による舞台発表やロビー出展も!(ロビー出展は開場時刻の12時より開催予定)

【入場料】 全席自由

◎大人 2000円(税込)

◎生徒・学生 1000円(税込)

(小学生・中学生・高校生・専門学生・大学生)

◎未就学児 無料

(要保護者同伴・要事前申込)

※当日券の販売はありません。



十三世林喜右衛門(金の星渡辺写真場)

【チケット販売方法】 以下の①②いずれかの方法でお求めください。

①プレイガイド(チケットぴあ)販売

公演タイトル:備中伝統芸能フェスティバル「藤戸」演能会/Pコード:512304/興行コード:2213701

販売用URL:<http://ticket.pia.jp/pia/event.ds?eventCd=2213701>

②下記2カ所での直接販売

◎つくぼ片山家(要事前連絡) 〒710-0023 倉敷市帯高727

電話:080-3107-5759/メール:project.katayama@gmail.com

◎倉敷市芸文館(9:00-17:00/水曜日休館) 〒710-0046 倉敷市中央1-18-1 電話:086-434-0400





十三世林喜右衛門（金の星渡辺写真場）

能「藤戸」とは

1184年の源氏・平家の藤戸合戦が題材。

藤戸海峡を隔てて対峙する源平両軍。当時、この地はほとんどが海だった。源氏の軍勢は船がなく、海を渡ることができずにいたが、源氏の武将・佐々木盛綱は、地元の漁師から浅瀬の場所を聞き出して、翌朝そこから攻め込むことに成功する。平家軍は屋島へと敗走。まさに天下分け目の戦いともいえる合戦だった。だが、盛綱はこの時、秘密を守るために、浅瀬を教えた漁師を殺していた。

盛綱が領地となった児島に入ると、その漁師の母親が現れ、盛綱に詰め寄る。盛綱も罪を認め、盛大な法要を営むと、漁師の霊が現れる…。

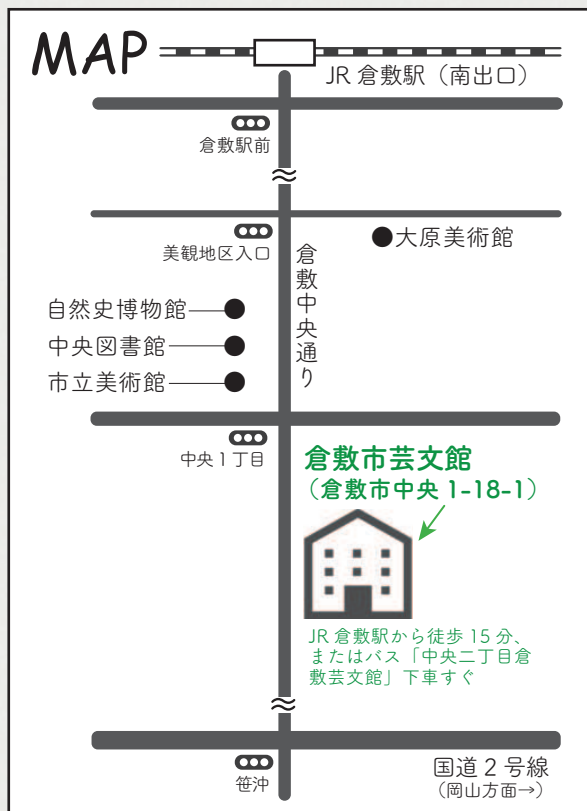


林 宗一郎氏

能楽師観世流シテ方。

京観世五軒家のうち、唯一残る林家十四代当主。

1979年京都生まれ。3歳で鞍馬天狗の花見役にて初舞台。父、十三世林喜右衛門師、及び二十六世観世清和に師事。



地域活動団体の舞台発表やロビー出展、神楽公演も!

「備中伝統芸能フェスティバル」では、「藤戸」演能会に加え、伝統芸能などの分野で活動している備中地域の団体等の発表・交流の場として、それら団体等による舞台発表やロビー出展を企画しました。なおロビー出展は、開場時刻の12時より開催予定です。

また、今年度は新見・高梁エリアとの連携企画であり、特別招待枠として備中神楽「備中成羽社」様を招待しました。

未就学児の入場OK!

感染症対策の一環で、事前に来場者数等を把握する必要がありますので、未就学児のご来場を希望される場合は、専用サイトで「事前申込」を行ってください。専用サイトには、右記QRコードからアクセスいただけます。



令和4年度 岡山県備中県民局提案型協働事業

主催:特定非営利活動法人つくぼ片山家プロジェクト

共催:岡山県備中県民局

後援予定:岡山県教育委員会/倉敷市教育委員会/公益財団法人倉敷市文化振興財団

※新型コロナウイルスの感染拡大状況により、延期・中止の可能性があります。最新情報は法人HP、法人FB等でご確認ください。
※ご来場の折はマスク着用、事前検温等の「新しい生活様式」に基づくご協力をお願いいたします。